

エコチルひょうごからのお知らせ

質問票について

エコチル調査では【お誕生月の質問票】と【学年単位の質問票】の年に2回の質問票調査を行っていますので、お子さんのお誕生日によっては2つの質問票が同じ時期にお手元に届くことがあります。

お手際の際にご回答いただき、ご返送いただきますようお願いいたします。

(返送していただいた質問票にお名前の記入漏れが増えています。ご記入漏れがありますと、謝礼の発送が遅くなってしまいます。返送していただく前に、ご記入漏れがないか再度チェックをお願いします)



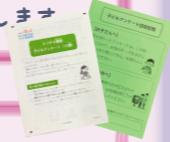
10歳・11歳のお子さんへ

10歳【お誕生月の質問票】からは、お子さん自身に回答してもらう『子どもアンケート』が入っています。このアンケートは普段の生活の様子や感じていることを答えていただきます。10歳子どもアンケートご協力いただいた方には、オリジナルの「チルチルの刺繍入りナップザック」をプレゼントいたします。

保護者の方へ

10歳・11歳質問票をご返送いただく際は、保護者用の質問票と『子どもアンケート』を同封の上、ポストに投函をお願いします。

※『子どもアンケート』を入れる緑色の封筒では郵送することができませんのでご注意ください。



乳歯調査について

乳歯2本のご提供をお願いしております乳歯調査にご協力いただける小学4年生のお子さんに、6月下旬より回収キットの発送が始まります。

まだ「協力確認はがき」を出されていない方は、ご協力の可否をご記入のうえ、ご返送くださいますようお願いいたします。お電話でも受け付けておりますので、下記までご連絡ください。

(連絡先) 0120-456-019



今後のイベント予定



走り方教室

11月頃の開催を予定しています!

講師：T&F.net KOBE

前回大好評だった走り方教室を今年も開催予定です!

早く走れる方法を楽しく一緒に学びましょう!



詳細未定

決まり次第HPにてお知らせいたします!



公開講座

2月頃の開催を予定しています!

エコチル調査でわかったことをご報告いたします



小学2年生学童期検査

2019年度から実施している小学2年生のお子さんを対象とした「小学2年生学童期検査」は今年度が最終年度となります。

今年度も、各地域の皆さんが参加しやすいように尼崎市内の公共施設(主に生涯学習プラザ)に会場を設置し、6月から10月までの週末に実施する予定です。



【編集・発行】

兵庫医科大学 エコチル調査兵庫ユニットセンター
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号

0120-456-019

mail: ecochild@hyo-med.ac.jp

URL: https://www.ecochil-hyogo.jp



エコチルひょうご

2022.06
春夏号
Vol.19

いつもエコチル調査にご協力いただきましてありがとうございます。しっとりとした空気に緑の香りが漂う初夏の季節となり、早いもので今年も折り返し地点の頃となりました。引き続き新型コロナウイルスの感染予防対策をしっかりと行いつつ、梅雨本番を元気に乗り越えましょう。今号は、2年ぶりに開催を予定をしているイベント実施情報からお伝えしていきます。

第一弾は、夏休みに嬉しい科学体験!!

科学教室

講師：大阪科学技術センター

7月4日(月)9:00
申込み開始

『空気』をテーマに空気のかや流れなどによっておこる不思議な現象を体験しよう! おもしろ実験ショーや、サイエンスマジックにもチャレンジしよう!

- * 日時：2022年7月23日(土)
第1部：10:30～12:00(開場10:10)
第2部：13:30～15:00(開場13:10)
- * 場所：中央北生涯学習プラザ【大ホール】
(尼崎市東難波町2-14-1)
- * 対象：エコチル調査に参加されているお子さん
- * 定員：各回100名

※新型コロナウイルス感染症防止のため、付き添いの方は1名のみとさせていただきます。

中央北生涯学習プラザ



こちらのQRコードからイベントページへGO!!

応募は申込み開始日時より、Webサイト『エコチルひょうご』の【イベント情報】にて受付けます。※定員に達しましたら、締め切らせていただきます。定員に達した後も、システム上申し込みフォームの送信が行われることがございますが、ご参加いただけない可能性がございますことをご了承ください。

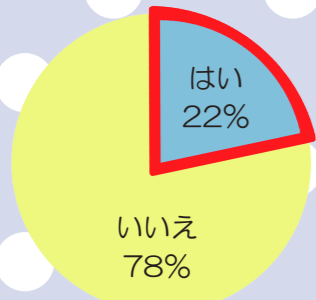
皆様にご回答いただいた質問票の集計結果（一部）をご報告します。



今回は6歳質問票の結果より、お子さんのおねしょ・おもらしについてご報告します。
『5歳以上で、1か月に1回以上のおねしょが3か月以上続く』ことを、医学用語で『夜尿症』と言いますが、すべてのお子さんに治療が必要というわけではなく、自然に治るケースがほとんどです。

最近3か月のあいだに、1か月に1回以上おねしょをしましたか？

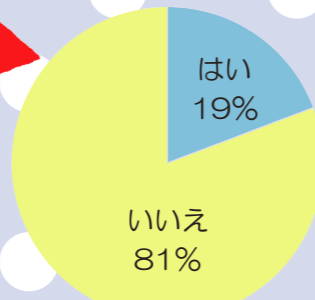
回答数：3,815
(無回答：9件)



おねしょの頻度が1か月に1回以上のお子さんは22%でした。

おねしょをしなかった期間が6か月以上続いたことがありますか？

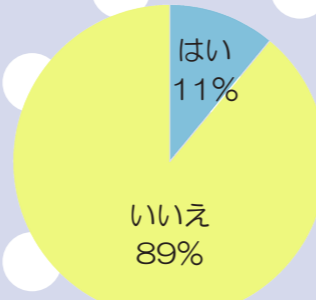
回答数：827
(無回答：47件)



3か月以内に1か月に1回以上おねしょをしたお子さんのうち、おねしょをしなかった期間が6か月以上続いたお子さんは19%でした。

3か月のあいだに、毎月1回以上昼間のおもらしをすることがありますか？

回答数：3,815
(無回答：65件)



日中のおもらしの頻度が、1か月に1回以上あるお子さんは11%でした。

※この結果は2022年5月9日時点での兵庫ユニットセンターの参加者さんからの回答に基づく暫定的結果です。結果は四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。

聞きたい子どものおねしょ



夜尿症の原因は？

夜尿症の原因は、

- ① 夜間に膀胱がおしっこでいっぱいになっても目を覚ませない
- ② 夜間、膀胱におしっこを溜めておく能力が未熟である
- ③ 夜間の尿が多い

ことなど、いくつかの要因が関係すると言われています。子どもの性格や育て方などとは関係がありません。



年齢ごとの夜尿症の割合はどれくらいなの？

夜尿症の中でも、おねしょ以外の症状がない子ども（つまり、日中におもらしをしたり、おしっこが出にくいなど、昼間の症状がない）の割合は、6歳で13%とされており、年齢とともに減少しますが、ごくまれに成人まで続くことがあります。



夜尿症はどこに相談すればいいの？

多くの子どもは、成長とともに自然におねしょをしなくなっていく。しかし、生活指導などの治療を行うことで早く改善することが多いと報告されています。そして、おねしょから卒業した子どもたちは、自尊心の回復がみられたという報告もあります。おねしょに悩んでいた、6か月以上おねしょをしなかったのに再びおねしょをするようになった場合（二次性夜尿症）は、小児科もしくは泌尿器科に相談してみてください。



受診したらどんなことをするの？

おねしょの状況や日常生活の様子をお伺いして、尿検査などを行います。まれに、夜尿症をきたす可能性のある病気が原因となっていることがありますので、必要に応じて血液検査や超音波検査などを行うこともあります。



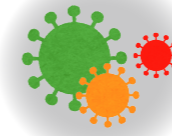
夜尿症の診療ってどんなの？

まずは塩分摂取を控える、寝る前の水分摂取を控える、寝る前にトイレに行くなど、生活改善に取り組みます。それでもおねしょが続く場合は、お薬を飲むなどの治療を行うことがあります。

引用文献 夜尿症診療ガイドライン2021 編集：日本夜尿症学会

気になるおはなし

このコーナーでは、参加者の皆さんが知りたいと思う情報を兵庫ユニットセンターの職員から発信していきます。



根絶された病気



私が医師になってすぐのころ、水疱瘡（みずぼうそう）の診断について大先輩から詳しく指導していただきました。その理由の一つとして、初期には天然痘との区別が難しいことがあります。天然痘は1980年に根絶宣言されており、私が医師になったころにはすでに心配のない病気でしたが、年長の医師にとっては見逃してはならない病気であることがしみついていたのでしょう。

天然痘は長年の間猛威を振るい、毎年数百万人が死亡していましたが、ジェンナーによって実用的なワクチンが開発されてから実に200年の歳月と、多くの人たちの国をまたいだ努力の結果、最終的に根絶されました（実験室には保存されているので恐竜のように「絶滅」とは言いません）。

ではどんな病原体でもいずれは根絶できるかという、そうとは言えません。世界の隅々まで分布し、スキがあればどんどん増える、目に見えない微小な病原体を一つも残さず無くしてしまうのは一見不可能と思われます。天然痘の場合は、以下のように根絶できる条件がそろっていました。

- ① 感染すると発症率が高く、見た目に特徴的な症状を示し、治った後は長期間ウイルスを排出することがなかった。そのために感染源を見逃さずに対応することができました。
- ② 感染を予防できる有効なワクチンがあった。また天然痘ウイルスは突然変異を起こしにくく、後から新型天然痘が出現して再感染したり、ワクチンが効かなくなることもありませんでした。
- ③ 人間以外に感染することがなかった。インフルエンザのように動物に感染することがないので、人間だけに対応すればよかった。

燃えるものをなくせば大きな火事もやがて消えてしまうように、ウイルスもついには消えてしまったのです。天然痘に続き、はしか（麻疹）やポリオはすでに感染数がかなり減少しており、将来的に根絶が可能だろうと言われています。

近年、定期予防接種のワクチンの種類は増えつつあります。多くのワクチンを接種することは大変な負担ですが、そのおかげで細菌性髄膜炎などの危険な病気が明らかに減ってきています。これは統計を見るまでもなく、医療現場に長くいれば実感としてわかります。

人間が健康に生きていくのは決して当たり前のことではありません。医療分野に限らず、少しずつでも世の中を安全にするためにさまざまな活動が行われています。その成功例のひとつが天然痘の根絶であるといえるでしょう。



エコチル調査兵庫ユニットセンター
特任講師 小児科医
田中 靖彦